

第1回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和3年7月13日（火）午後2時00分から午後4時30分
- 開催場所 富良野文化会館 大会議室
- 出席者 <委員>北会長、荒木委員、菊地委員、加茂委員、牛島委員、山崎委員、倉西委員、藤田委員、水間委員、平間委員、小玉委員、遠藤委員、吉中委員、飯沼委員、黒木委員、山崎委員（計15名）
※欠席委員 石川委員、柿崎委員、藤田委員、林委員、岩井委員（計5名）

<事務局>稲葉総務部長、山下市民生活部長、柿本保健福祉部長、川上経済部長、小野建設水道部長、亀淵教育部長、藤野財政課長、関澤企画振興課長、猪股企画振興係長

<受託事業者>フラノデザイン(株) 中村、大曾根
北海道立総合研究機構 五十石

1. 開会（午後2時00分）

- ・事務局より、有識者会議の目的、総合計画伴走業務をフラノデザイン株式会社へ委託、委員の変更、欠席委員について説明。

2. 市長挨拶

- ・コロナの終息が見通せない状況のなか、ご参加いただいた委員の皆様にご挨拶を申し上げます。また、昨年度は第6次富良野市総合計画の策定にあたりご尽力いただきましたことに重ねてお礼を申し上げます。
- ・本年度より「『美しい』のその先へ。WAわがまち、ふらの」をスローガンとした第6次富良野市総合計画がスタートしました。本会議では計画の進捗の検証等を1年間かけて進めていくこととなります。
- ・総合計画の推進にあたっては、「共創」と「デジタル」の二つのアプローチを両輪として進めていくこととなりますが、これまでも市民との協働、官民連携の取組を進めてきましたが、これらの取組をより進化させ、わかりやすくしたものが「共創」となります。今まで以上に柔軟な発想が必要となりますので、委員のみなさんのご提言を宜しくお願いいたします。
- ・幸福度調査については、道総研に調査委託を依頼しています。この調査についても、新たな発想が必要となってきます。これまでの議論は「ないことをやるために」という議論が多かったが、幸福度調査は、「あること、創ろうとすることを形」にしていく新しい取組となります。
- ・10年後の富良野を見据えることが必要な視点となります。委員各位のご協力につきまして、よろしくお願いいたします。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

3. 議題

- (1) 総合計画重点施策の進捗状況について
別添資料に基づき、関澤企画振興課長より説明

<質疑>

【黒木委員】

- ・資料1-1、推進状況のうち継続事業については、これまでの事業を引き続き行い、新たな事業は行わないという考え方で良いのか。

【関澤課長】

- ・12の重点施策については、既にそれぞれの事業が総合計画に基づき、新規・拡充・継続等の取組を進めています。全ての事業を進めながら、状況に応じて事業内容の精査・検討を進め、必要に応じて修正していくこととなります。

【飯沼委員】

- 本計画には「富良野ならではの子育て環境づくり」といった素晴らしい施策がある。説明では、進捗管理される体制にはなっているが、実際にどういった施策が行われているのか、市民周知も含めもっと視える化していくことが必要ではないか。

【関澤課長】

- 特に子育て支援に関しては、広報ふらのでも周知していますが、伝わりにくい部分があることも承知しています。市民のみなさまへわかりやすくお伝えしていくことを様々な場面において努力をしていきたいと考えています。

【荒木課長】

- 進捗状況報告となっているが、中身が伴っていない。重点施策の事業だけでなく関連する事業も含めて、進捗状況を一覧表にしていく作業が必要。

【関澤課長】

- 第6次総合計画についてはスタートした直後ということで、進捗が出しにくい点につきましてはご理解いただきたいと思います。今年3月までが計画期間の第5次総合計画については、KPIの達成状況を現在市内部で取りまとめを行っており、今後HPで公表させていただきます。本年度の有識者会議については今後複数回予定しておりますので、整理の仕方・公表方法については今後検討させていただきたいと思います。

(2) 幸福度調査について

別添資料に基づき、牛島主幹より説明

<質疑>

【荒木委員】

- なんのために幸福度調査をするのか、判断が見えない。説明にあった指標について、今の富良野の総合計画・総合戦略にあった調査なのか、その理由をお聞かせ願いたい。

【牛島主幹】

- 説明の指標がメインになるとは考えていません。本年度は幅広く調査を行うことを目的としてその調査内容の一つになります。富良野市ならではの（良さ）の指標については、このあとのワークショップでの内容を参考にさせていただき、仮説を立てながら指標を作り込んでいく作業を進めていくことになります。

【荒木委員】

- 前提として、昨年度策定した計画をベースに市民に幸福度を図るべきではないか。市民のみなさんが幸福を感じられるよう作成したのが今回の計画となっている。これから富良野市民に富良野の幸福度を聞くのであれば、再度総合計画を作り直すことが必要になる。幸福度調査によって今回の計画の足りない部分を埋めていく、そういう捉え方をしていた。

【牛島主幹】

- 総合計画に沿った形での評価については、別途満足度調査という形で評価していくことが可能です。それとは別に計画内で主観的指標として市民の幸福度を図るということで、総合計画の施策に係る幸福度とは少し違う視点での調査ということで理解して今回準備してきました。

【北会長】

- 今説明があったとおり数字で割り切れるものではないと考えています。総合計画自体も「ここまでやれば満足」といった作りではありません。市民のみなさんの多様性・感性が違う中で、幸福度の判断の仕方という部分が、道総研の説明であったかと思えます。

【荒木委員】

- ・総合計画のなかで満足度調査は入っていない。今後行う予定はあるのか。

【北会長】

- ・満足度調査については、今のところ考えてはいません。

【荒木委員】

- ・過去の行財政改革の議論の中で、市民が幸せを感じて生活するためには、自分が生きていてうれしいと思える生きがいと、一定の収入が必要ということが全員一致の見解となった。一定の収入とは、単なる収入が高いというだけではなく、可処分所得やゆとりを持った生活に繋がるといったこと。富良野市は残念ながら全国と比較しても所得が低い状況となっている。所得を向上させるのに必要な施策として、総合戦略の中では仕事の輪に入ってきている。お金の問題だけではないが、幸福度調査を行う上で、所得を考慮しないとすると、総合計画、総合戦略と整合性がとれないのではないのでは。

【北会長】

- ・お金も大事な要素だと考えますが、市民全員が所得が足りないと考えているのか。足りない人についてはより多くの所得をとるという希望があるかもしれません。満足している人もいます。所得格差が広がっている状況もあることから、個々の所得格差をなくしていく、まちづくりにおいて所得の向上を図っていくことも重要なことと考えています。ただ幸福度調査に直結していく事項なのか、という点については、議論が必要かと思えます。

【荒木委員】

- ・お金以外の指標を用いるのではなく、お金も取り入れていただきたい。生活に密着していることに繋がっています。最初から排除することはしないでほしい。

【北会長】

- ・多様性という部分を大事にしていくことが重要です。最初からお金に係る部分を排除することはありません。

【牛島主幹】

- ・地域幸せ度風土指標のなかにも直接お金のことを聞くことではないですが、食べるものや、住むところに困っていないかという設問もあり、要素として入っています。

(3) 幸福度調査に係る意見交換

※全体の意見交換の前に、3~4人のグループで意見交換を実施

※グループワークの議論については録音し、今後道総研において整理をする。

4. その他

①2020 国政調査の速報値に基づく富良野市の人口減少・出生率の状況について
荒木委員より別紙資料に基づき情報提供

- ・国勢調査速報値から社人研の予測より人口減少率が大きかった。沿線や類似団体と比較しても大きく落ちている。
- ・この結果はまちの政策のスコアリングと考える。本会議は総合計画・総合戦略の検証を進める場となっている。今後の検討資料として説明させていただいた。

5. 今後の予定

- ・今後の有識者会議日程について事務局より説明

6. 閉会（午後4時30分）

【北会長】

- 幸福度のグループワークで色々な話しが出ていました。幸福を感じる場面は、それぞれの感性もあり一定となるわけではないが、笑顔で話し合いが行われているときは、多様な意見が出る雰囲気がありました。
- 幸せにつながる確信はないが、笑顔でまちづくりを進めていくことが、富良野市の今後に繋がると考える。委員のみなさんには引き続きのご協力をお願いいたします。